

一〇一五年七月一日

遠雷に急かされ上がる仕舞ひ風呂
星涼し亡き人の句に想ひ馳せ
飛石に石臼もあり庭涼し

一〇一五年七月一〇日

初蝉や木々のさやぎの間遠より

一〇一五年七月九日

登校路見守り隊めく立葵

参道の緑陰に笑むえびす像

一〇一五年七月八日

舌巻いて風鈴機嫌悪きかな

冷房の効きすぎてカフエ寬げず

一〇一五年七月七日

星の竹飾り園児ら合唱す
睦み蝶二重らせんに舞ひにけり

一〇一五年七月六日

苔淨土なる一門の墓所

礎のぼるほどに高鳴る蝉時雨

巣立ちの日旋回つづく親燕

康子 勉聖 穂木
康子 勉聖 穂木

一〇一五年七月五日

老いてなほ願ふことあり星祭り
天窓を白変したる稻光
堂縁の足裏にのこる梅雨湿り
老鶯のしばなく山の朝かな
ハルニレの洩れ日涼しき大路かな
広池の余白なく満つ蓮淨土

明日香 澄子 山椒
明日香 澄子 山椒

毎日句会みのる選・一〇一五年七月一三日